

入試年度	2023	入試方式	一般（秋季）	課程	博士前期
研究科	発達教育学	専攻	心理学	領域（分野）	心理学

出題のねらい

入学者受入れの方針に記されたように、筆記試験では、「心理学に関する総合的な専門的知識あるいは技能の有無について精査する」ことを目的とするが、特に外国語の筆記試験では以下の各点について評価を行うことを目的とする。

まず、心理学で最も多く出版されている英語文献を読みこなすことにつながる基本的な英語の語学力を有しているかどうかを評価する。そのため、英語の問題では、数パラグラフの心理学に関する問題文を読んでもらい、その一部分を日本語に訳すこと、質問に答えてもらうことを求めている。問題文全体を読んで、理解した上で設問に答えているかを通して、基礎的な語学力を評価する。

また、外国語の筆記試験では、英語力だけではなく、研究に必要な日本語の能力、論理的能力を評価することも目的とする。この問題では、特に訳の日本語の正確さ、適切さ、および問題文全体の文脈に即した解答ができているかを見て、これらの能力の有無を評価する。

さらに、心理学的なものの方、考え方を備えているか、心理学の方法論について一定の理解をしているか、心理学の基本的な概念についての理解が十分であるか、などについても評価する。これらについても上で述べたのと同様に問題文全体の文脈に沿った解答ができているかどうかから評価する。

解答・解答例または採点時の評価ポイント

上記の狙いに沿った評価を行う。具体的な評価のポイントは以下の通りである。

①問題文全体を読んでいるか。修士論文の作成などではある程度の分量の英語文献を読みこなす必要があるが、ここでは短時間である程度の量の英文を読み、大意を掴むことができているかが評価される。【2】の（2）（3）は、全体を読まなければ答えられないような問題であるが、それ以外の部分訳の問題も、全体の文脈を捉えて訳語が選択されているか、訳自体がなされているかが評価される。

②部分訳の問題では、英語が文法的、内容的に成果に訳されているか、学術的な文章に相応しい適切で正確な日本語で訳されているかが評価される。たとえば【1】では、問題文が心理学史上重要な行動主義心理学の考え方、行動主義の中での考え方の相違などについて論じた文章であることを踏まえた上で、訳されていることが高評価につながる。訳語は、このあたりの基本的な内容については、テクニカルタームは通常使われている訳語が当てられることが望ましく、高評価につながるが、最低限、文脈から見ておかしい訳語になっていないことが重要である。

③【2】の（2）（3）、特に（3）はさまざまな解答が考えられるが、高い評価につながる要件としては、研究の目的、条件の設定や従属変数、結果の概要を押さえていることがあげられる。（3）では、たとえば「従属変数の選択がこのような理由で十分ではないと考えられる。」などといった解答が例としてあげられる。